

# 女性の装いや意識を一変

「ミニの女王」と呼ばれた英国のファッションデザイナー、マリー・クワントさんが13日、93歳で亡くなった。1960年代にミニスカートを提案、女性たちの装いと意識を大きく変えた。

55年にロンドンのキングス・ロードにブティック「バザー」を開き、動きやすいミニスカートなど斬新なデザインの服を若者らに販売した。当時のファッションは、コルセットでウエストを締めた窮屈な服など、上流階級に向けたものを中心だった。ミニスカートは世界的流行となり、女性の社会進出の象徴と捉えられた。

その後もミニスカートに合わせるカラータイツ、ビニール素材のコート、ジャージのドレスなど、新素材を活用した既製服を次々とヒット

## マリー・クワントさんを悼む



させた。「スウィング・ロンドン」と呼ばれる若者文化を代表する存在となり、66年に大英帝国勲章を受章した。

服飾史家の中野香織さんは、「マ

リーは自然体でジェンダーや階級意識に立ち向かった。スカート丈だけではなく、女性が社会に向き合う姿勢、広告、ファッションビジネスの方法まで変えた」と指摘する。当時、女性はスプレーで髪を固めてセットしていたが、クワントさんは洗ってすぐ乾かせるショートカットを自ら取り入れ、長時間崩れにくい化粧品を販売。「女性の活動的な生活に合わせた提案が、軽やかに社会を変え、現在に続く価値観を生み出した」と中野さんは評価する。

ブランドロゴの「デイジー(ヒナギク)」のマークを商標登録し、世界各地でライセンスビジネスを展開。量産することで誰にでも手が届くおしゃれなアイテムを作った。

クワントさんのミニスカートを着用したことで知られるモデルのツイッギーさんは、「ファッションに革命を起こした素晴らしい女性起業家だった」とSNSで追悼した。

デイジーのマークのステージで、モデルに囲まれるクワントさん(中央下)  
 1967年撮影、AFP

(谷本陽子)